

佐川美術館 樂吉左衛門館

Sagawa Art Museum Raku Kichizaemon-Kan

No. 13-004-2010更新

新築
美術館・博物館

発注者	佐川急便 株式会社	カテゴリー				
設計・監理	設計創案：樂吉左衛門 設計・監理：株式会社 竹中工務店	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社 竹中工務店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

恵まれた自然環境に配慮した美術館

建物概要

敷地は琵琶湖東岸に位置しており、単に作品を展示するだけでなく、比叡山を望むこの湖畔に恵まれた自然環境と精神性を象徴する美術館が求められた。

1998年3月に佐川美術館本館が開館、その後2007年9月に別館として樂吉左衛門館が開館した。（配置図参照）



茶室 外観写真

深い軒による耐久性の向上と熱負荷の低減

別館は本館から拡張された水庭に浮かび、水生植物に囲まれた茶室のみを地上に配置している。茶室の軒は深く、建物を風雨から守り建物の耐久性の向上に寄与している。また、室内への日射を制御する効果も果たし、熱負荷を低減している。



茶室 俯仰軒 内観写真

茶室のガラス開閉による自然通風

茶室の内外を仕切る大型のガラスは開閉が可能であり、自然通風が可能となっている。季節の良い時期には、ガラスを開け放って茶室を使用することができる。

地下化された展示室に設けられた自然採光

水上の茶室の効果を最大に生かすために、茶室アプローチを含め、展示室等の機能の大部分はあえて水面下の地下に配されている。地下空間は人工照明のみならず、トップライトを採用することにより自然採光が図られている。



ホール 内観写真

設備システム

設備システムとしてはCO₂濃度による換気風量制御、熱回収ヒートポンプチャラーの採用により高効率化を図っている。

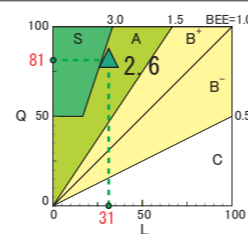
また、予作動式スプリンクラーと窒素ガスによる消火設備により、汚染物質含有材料の使用を回避している。

建物データ

所在地	滋賀県守山市
竣工年	2007年
敷地面積	5,366.45㎡（樂吉左衛門館）
延床面積	2,262.05㎡（樂吉左衛門館）
構造	RC造 一部S造
階数	地下2階、地上1階

CASBEE評価

Aランク
BEE=2.6
2004年度版
自己評価



周辺環境の整備

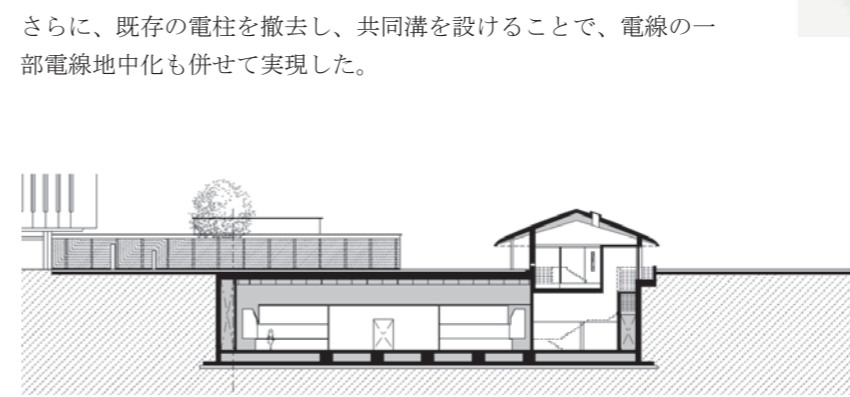
本館、および別館 樂吉左衛門館の計画を通して、周辺環境の整備にも積極的に取り組んだ。

本館完成時に150mのケヤキ並木を整備し、別館完成時には、さらに湖岸までのプロムナードとして拡張した。

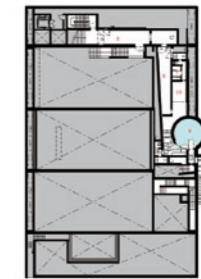
また、東隣地側に設けた里山風の築山を設け、地域にも開かれた500mに及ぶエリアをより雄大な水と緑のランドスケープとしてこの地の風景の再構築を行った。



俯瞰パース



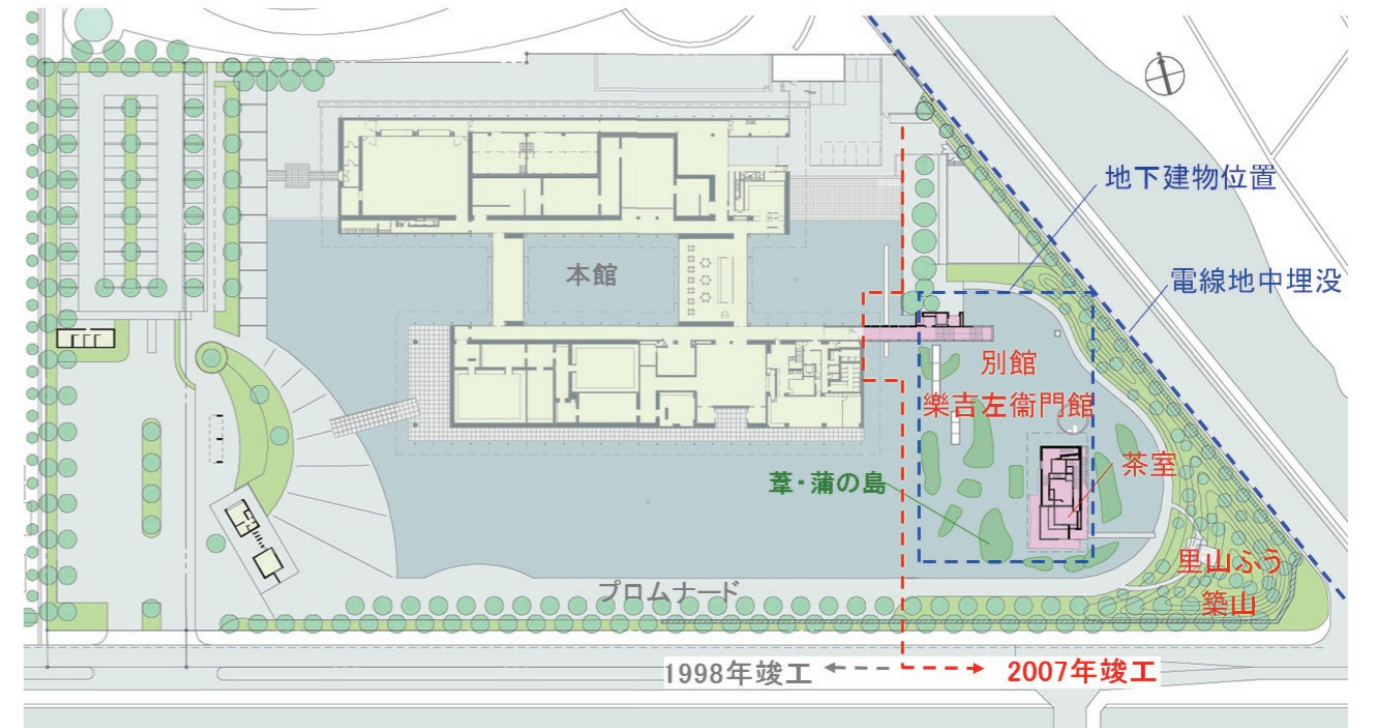
断面図



B1階平面図



B2階平面図



配置図

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3.2 まちなみ・景観への配慮（並木の整備、および敷地内共同溝の採用による公道の無電柱化）
- LR1.1 建物の熱負荷制御（庇の深いデザインによる熱負荷の低減）
- LR1.2 自然エネルギーの利用（外壁開放による自然通風、トップライトによる自然採光）
- LR1.3 設備システムの高効率化（CO₂濃度による換気風量制御、熱回収型ヒートポンプチャラーの採用）
- LR2.3 汚染物質含有材料の使用回避（予備動作スプリンクラーと窒素ガスによる消火設備）